

## ごあいさつ

昭和40年、当時の中田青年団の方々により、約50年間途絶えていた虫追い踊りが復活されました。その後地区の伝統行事として、青年団、公民館、地区振興会により約50年間に渡り受け継がれてきました。

人口減少に伴う少子高齢化により、中田虫追い踊りは平成29年4月をもって幕を閉じました。

これまで虫追い踊りの継続にご尽力いただいた方々に感謝を申し上げますとともに、後世に虫追い踊りの歴史を残すため記録誌を作成することとしました。

資料作成にご協力いただきました諸先輩の方々に心より感謝申し上げます。

中田地区振興会  
会長 石本 文人

## 目次

- ◆ ごあいさつ…………… 1
- ◆ 中田「虫追い祭り」・由来…………… 2
- ◆ 中田「虫追い踊り」・沿革・あゆみ…………… 3~4
- ◆ 虫追い踊り 楽譜（太鼓・鐘・笛）…………… 5
- ◆ 虫追い踊り 踊り方の手順…………… 6
- ◆ なつかしい写真…………… 7~19
- ◆ あとがき…………… 20

## 中田「虫追い祭り」

### 由来

虫追い祭りの行事がいつ頃から始まったか不明ですが、虫追い祭りとは田植えが終わった6月頃、農作物の害虫を追いやり五穀豊穡を祈願する祭りて、その祭りに虫追い踊りが奉納されていたと言い伝えられています。虫追い踊りに使われていた鐘に元禄十年（1697年）と刻まれてあり、菅原神社の建設年（貞享時代）などから察すると、少なくとも元禄初期（約300年前）より行われていたと考えられます。

虫追い祭りの行事の一つとして奉納されていた虫追い踊りは、七人一組であったようです。中田は以前、一町田組であったため、一町田や久玉町内の原の虫追い祭りに似ています。浴衣に草鞋、脚絆、褌、鉢巻の身軽な昔ながらの出で立ちで、鐘・太鼓・笛・法螺貝に合わせ、大太鼓を打ち続ける勇壮極まりない踊りです。

虫追い踊りと同時に行われた幟行列は、村内五地区（村、中、田導寺、赤石、西）から奉納され、小幟なら竿竹五本以上、大幟なら一本とし、この場合五色の吹流し五枚を付け、幟竿竹は大竿一本に限られました。大幟の場合、幟の倒れを防ぐため、四本の引き綱を付けることは許されていましたが、木材など一切使用を禁止されていたようです。当日は、幟行列の出発順番は特に規定されていなかったようですが、幟丈の高い順に海岸に向かって進行することになっていたようで、その順番争いは熾烈なものがあったようです。この幟竿を、一方は水田へ、一方は川や山という道中、狭い昔の道をその地区住民のみに限定された人員で進行することは実に至難であったと思われます。万一、誤って幟を倒すようなことがあれば、進行の順番は取り消され最下位になる規定であったとのこと。終着点は海岸で、この幟竿を海に投じて終了とされていたようです。

この幟行列が終了し、一切の虫追いの行事が終わると、各地区住民はそれぞれ一同に会し、豊年満作を祈願し、住民同士の団結をさらに強化する機会を作ったと言い伝えられています。